



### 下都賀地区 PTA 指導者研修 II

10月17日(木) 栃木市藤岡文化会館、藤岡公民館を会場に標題の研修会を開催しました。

研修の前半は、「ネット社会に生きる子どもたちに必要なものと大人がすべき役割」を演題に、江戸川大学メディアコミュニケーション学部情報文化学科の教授である玉田 和恵 氏から御講話いただきました。玉田先生からは、子どもが情報モラルを身に付けるには、日常モラルを育てることが大切であることや、学校と家庭の連携の在り方について分かりやすくお話いただきました。

研修の後半は、テーマを三つに分け、分科会を実施しました。それぞれの会場では、参加者が活発に意見交換を行い、有意義な研修となりました。

#### 【参加者の感想】

- ・ ネットが便利になる分、危険も伴うことを改めて感じました。子ども自身にモラルを向上させることを教育していきたいです。
- ・ 分科会では、同じくらいの子をもつ親御さんと話したことにより、子どもに対する考え方、子育て法、エピソードなどの共有ができ、とても楽しく参加できました。



### 下都賀地区ふれあい学習研修会

#### 兼下都賀地区地域連携教員研修



11月15日(金) 下野市国分寺公民館大ホールを会場に標題の研修会を開催しました。

今年は、栃木県が全国に先駆けて地域連携教員を公立校全校に設置して10年の節目となりました。そこで「Re:BORN(再生)学校と地域の連携・協働～これまでの10年。そして、これからの10年～」をメインテーマとして、研修1では、国立教育政策研究所生涯学習政策研究部総括研究官 志々田 まなみ 氏から、地域学校協働活動の意義について、第4期計画のコンセプトの一つである、日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上と関連付けて御講話をいただきました。研修2では、拡散思考を促すアイデア出しの手法を体験するワークショップを通して、各所属の活動を基に、意見交換や情報の共有を行い、大変充実した研修となりました。

#### 【参加者の感想】

- ・ 日本社会に根ざしたウェルビーイングという考え方、確かに納得でした！
- ・ これからの学校が目指していくべき事を分かりやすくお話いただきました。
- ・ 初めてのワークショップの手法でも楽しく、参考になりました。



#### 野木町 生涯学習課

### 「放課後子ども教室が始まりました」

野木町では、令和6年度から、野木小学校で放課後子ども教室を始めました。令和6年度は全7回を予定しており、現在50名を超える児童が活動しております。

今年度は、地域コーディネーターを中心に15名のスタッフと地域の外部講師が、おにぎりづくりや工作・押し花などの体験活動を実施しております。子どもたちからも大好評で、自分でおにぎりを作るようになった児童がいたり、「次はいつやるの?」「またやりたい!」といった声が聞かれたりしています。

地域の大人が子どもたちに安全で安心な活動場所を提供し、子どもたちが様々な体験・交流活動を通して、地域に愛着をもち、地域社会の中で心豊かに健やかに成長できる環境づくり目指して、今後も活動していきたいと思ひます。



#### 下野市

#### 心身障害者父母の会

### 「下野市心身障害者父母の会の活動」

下野市心身障害児父母の会は、下野市在住の様々な障害がある方の親の会として年間を通し、活動しています。レクリエーション教室は、年に1~2回実施し、日頃なかなか単独で遠出が難しい方々にとって、楽しく外出できる貴重な機会となっています。ポッチャ教室では、指導員の方にお越しいただき、みんなで体を動かすと共に、参加者同士のつながりをもつ時間となりました。

また、今年度から「下野市ふくしフェスタ」への参加を再開し、福祉ワカメとわたあめの販売しました。このイベントに子どもから高齢者の方まで幅広く来ていただき、顔を見てお話しさせていただくことで、親の会の存在や障害がある人たちへの理解が少しでも広がることを望んでいます。障害がある本人たちにもいろいろな経験ができる場が必要なため、このようなふれあいを通して、相互理解が進んでいくことを目的に、活動を続けていきたいと思ひます。



### 第3回ふれあい学習推進会議

12月3日(火) 小山市立生涯学習センター(えるる OYAMA)にて、第3回下都賀地区ふれあい学習推進会議を開催しました。会議では、2月に開催する『下都賀地区ふれあい学習ネットワーク』において、「障害のある人もない人も共に学ぶ体験交流会」を実施するため、実際の活動に向けた展開案や、広報の仕方について話し合いました。また今回は、当日御協力いただく連携先の一つである、中央福祉医療専門学校先生にも御参加いただきました。協議では、当日の流れ、使用する物品、必要なボランティアの人数などを確認し、展開案を検討しました。広報については、障害のある方がどうすればこの交流会に申し込みしやすいのか、どのようなルートでチラシを配布すると、より多くの方に周知できるのかなど、推進委員の皆さんの経験をもとにした意見交換を行いました。(作成したチラシは、下都賀教育事務所のホームページから、ダウンロードできます。)

1月に行われる第4回の会議では、実際に参加者の動きを想定しながら、活動中に必要な支援について確認し、当日に向けての準備を進める予定です。



「ふれあい学習」は、子どもを核とした幅広い年代の人々との交流活動や体験活動、学習活動を指します。ふれあい学習を通して、学校・家庭・地域が連携・協働し、子どもの「生きる力」を育むとともに、家庭と地域の教育力の向上を目指します。